

その後宿泊先の龍溪院で17人で反省及び親懇を計り、意見交換もあって有意義なひと時を過ごした。

二日目は生憎の雨降りになったが、ドームの下で懸垂降下のやり方、また実際に斜面を使つての練習をやり、基礎をしっかりと繰り返し返して終了した。

講習会に参加して

納得のロープワーク

豊川山岳会

山形 岳

二日間に渡つてみっちりロープワークを教わり、非常に勉強になった。早く実戦で使いたいという気持ちが出てきたがじっくりと反復練習して体に染み込ませたい。アンカー構築においてはシートベルト方式を教わり、自分の幅が広がった。この方式は衝撃を吸収しやすい素材で出来ているメインロープで構築できることがメリットである。その他、自己脱出や懸垂下降にしても「なぜこのシステムを使うのか、なぜこのロープワークを行うのか？」という理由を交えながらの説明だったので腹に落ちやすかった。二日目は生憎の雨だったが

荷重をかけながらの練習もすることが出来た。今後毎年、夜の懇親会も含めて出来るだけ参加していきたいと思つた。

本日に二日間ありがとうございました。

実りある講習

デンソー山岳部

神戸 和広

愛知岳連行事は昨年からの読図講習に始まり気象講習、冬山講習と受講し、今回は一番苦手な確保講習でした。

結びの基本を理解習得できてないので、事前勉強会にも参加しましたが、やはり頭が飽和状態になってしまい、不安を抱えたまま受講の日を迎えました。やはり自分が理解できてない結びの段になるとそれに囚われてしまい、なぜそこでその結びをするのかという基本が理解できないまま、順番だけ覚える態になりました。とはいえ写真は撮り復習に備えました。何とか一日目の講習を終え宿泊場所の龍溪院へ。明るいうちから飲み始め、一緒に講習を受けた方や常任理事の方たちから現在の会での取り組みや過去の武勇伝を伺い、刺激を受けた貴重な時間でした。加えて蛍鑑

賞会も良かったですね。

二日目は自己脱出を実際に滑落した人の重みを受け実践しました。これが全く移動できないほどで、最初の支点位置の重要性が良く分かりました。最後に植物園の裏手の斜面で懸垂と自己脱出の復習。今回は自分が身に付けなくてはいけない事が身にしみたりある講習でした。講師をしてくださった指導員の方々に感謝申し上げます。会に戻って教えられるように何度も復習したいと思います。



自然保護委員会

清掃登山や講演会予定

愛知岳連自然保護委員会が去る6月9日(火)19時より、県スポーツ会館で行われました。

まず、報告事項として第36回自然観察会が、4月29日に木曾福島の城山で、23人が参加して植物観察が行なわれました。

つづいて審議事項は、

- ① 第39回自然保護委員会総会が、9月12日(土)～13日(日)に福島県の磐梯青少年交流の家で実施されることになり、鈴木行薫、杉本三郎、青木周子の三人が出席の予定です。
- ② 第37回自然観察会を段戸裏谷原生林で11月3日(祝)9時より行ないます。
- ③ 平成28年度の自然保護委員会の行事予定は、5月28日(土)清掃登山を宮路山～五井山(豊川市・蒲郡)で実施。6月に自然保護講演会「ライチョウの生態について」を開く予定です。

〔出席者〕鈴木行薫、杉本三郎、青木周子、増田美智子、川上健一、内藤善一

(鈴木行薫)

公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成

西山行政書士事務所

〒460-0002 名古屋市中区丸の内三丁目21番21号 丸の内東桜ビル1004号

TEL : 052-961-6506 FAX : 052-961-6507
URL : <http://www.nygs-office.com/>
facebook : <http://www.facebook.com/nygs.office>

うなぎ錦三丁目 い ば しょう

いばしょう

〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目13番22号
TEL <052> 951-1166 番
営業時間 午前 11:00～午後 2:30
午後 4:00～午後 8:00
定休日 日曜日・第二・第三月曜日

寄稿 御嶽山噴火

噴石と強風に死を 意識する

豊田中研 平井 隆行

9月27日、私は御嶽山噴火当日に登山をしており噴火を体験しました。以下、私の体験したことを報告いたします。当日は天候の良い土曜日、さらに紅葉シーズンであったため多くの登山客が訪れていました。山頂に近づくとつれて、視界も良好になり、紅葉を楽しむことができました。さらに、ライチョウも姿を見せるなど、登山は楽しいものでした。(途中で見かけたライチョウの撮影に時間を使ったため、山頂に近づけなかったため、結果的に私を救うことになる)

煙を発見し、写真を撮っている様子を見て、山荘(覚明堂?)の方が「写真撮っている暇なんてないぞ!逃げろ!ガスにやられるぞ!」と叫びました。その声聞こえた登山者は、一斉に下山を開始しましたが、声が聞こえなかった登山者は、依然として写真を撮るために立ち止り、登り続ける方もいらつしやいました。私は「降りた方がいいみたいですよ」と声を掛けながら、引き続き上り続ける多くの登山者とすれ違い、全力で下山しました。その間、噴煙は瞬く間に上空に広がり、こちらに向かっていることがわかりました。

石室山荘を通り過ぎ、しばらくくしたところで、あたりはどんどん暗くなり、雨が降り出すようにぽつぽつと噴石が降ってきました。次第に、噴石の勢いは増していき、風を伴って火山灰と噴石が体を打ち付けました。山荘に戻るか、下山を続けるかの判断に迷いましたが、山荘まで戻るために20分以上要する位置までで下山していること、火山ガスから逃れるためにはできるだけガス源から離れた方が有利だと考えたことから、できる限り下を目指すことを選択しました。噴石で多くの方が亡くなった今回の災害で、この判断が正しかったかどうか

かはわかりません。そのような判断を行っていた間、噴石と風は勢いを増し、ついには辺りが一切見えないほど真っ暗となり、噴石と強風が襲いました。その暗さは数センチ先も見えないほどでした。この間に40℃程の温風と硫化水素の匂いを感じました。最も死を意識したのはこの時です。この暗闇と嵐がいつまで続くのか、事態が好転するのかわからず、天命に身を任せるのみでした。暗闇がどの程度続いたのかは、はっきりと覚えていません。周りがうつつすらと見え始めてから、ロープをつたって、少しずつ下山を始めました。しかし、視界が数十メートルであること、雷が鳴っていることを考えて、下山をするには不適と判断し、岩陰に身をひそめました。

雷が収まったところで、ようやく下山する別の登山者の姿を確認することができ、私も下山を開始しました。山道を見ると、岩の凹凸が分からないほどに火山灰が降り積もっていました。火山灰が降り積もった山道は、足場を選ぶ必要が無いため、テンポよく下山することができました。しかし、依然として細かい灰は降り続け、湿り気を持った火山灰が、靴の裏に付くため、非常に重く

なりました。ぬかるんだ部分は非常に滑りやすく、何度か転倒しかけました。8合目を過ぎたあたりで、ようやく命の危険が無くなったと確信できました。最後に私が生還することができたポイントと反省点を整理してみます。

①とにかく下に向かって、全力で下山したこと。②ガスの濃度が低くなり、噴石のサイズも小さくなったと思います。③登頂することへのモチベーションが低かったこと。④逃げろの声を聞いて、素早く下山することができました。(反省点) ①安全な山だと思いき、登山届を出していない。②素人だけで登山をしたため、普段よりきつい硫黄臭や、噴煙に対して、異常の判断ができなかった。③煙の動きがゆっくりに見えた(実際はとても速い)ため、危機感が足りなかった。④噴石に対する知識が無く、山荘に避難し、待機するという判断ができなかった。⑤ザックやポケットのジッパーが少し空いていたため、ザックの中、ポケットの中はすべて灰だらけになった。⑥ヘルメット・マスクなどの、噴石・火山灰に対する装備を持っていないかった。

安心して選べる三河地区のプロショップ JR刈谷駅前 穂高 〒448 刈谷市桜町1-13 TEL0566(23)8611 定休日/火曜日 営業時間/10:00~20:00

CLIMBING PARK 東三河初のクライミング施設 MONTANA 山 MONTANIA 住所:愛知県豊橋市関屋町138番地 住所:愛知県豊橋市萱町5番地